

# 1月号 School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン

## Dream通信

2014. 1. No.70



### 出会いと別れを通して出来る絆 ～SAJ教育支援ツアー～



ツアー参加者様をお出迎えします



里親様との再会で聞きたいことが沢山！



参加者様と積極的にコミュニケーションを

皆さん、新年明けましておめでとうございます。

こちら乾季のカンボジアでは、農作物の水遣りが大切な時期になりました。毎日欠かさず水遣りを行い、大きな実をつけるよう、緑の絶えない農園になるよう、職員、子ども一同で世話をしています。子どもたちにおいても同様に、日々の積み重ねが成長に繋がるよう、毎日の勉強、農作業に力を入れて取り組むことを、今年も指導していきたいと思えます。

今回のDream通信では、SAJ教育支援視察ツアーの参加者様が来園された際の様子と、新しく加わった職員の2つについてお伝えします。

#### SAJ教育支援視察ツアー

12月18日、SAJ教育支援視察ツアーの参加者様が来園されました。今回のツアーでは、渡邊代表理事も来園し、子どもたちとのミーティングも実施しました。また、里親様との再会や、支援者様との交流もあり、子どもたちにとっては、たくさんの刺激を受ける機会となりました。

今回のツアーでは、参加者の皆様に、まず子どもたちの学校での様子を見学していただき、子どもたちが普段どのように勉強に励んでいるのかを見てもらいました。その後来園し、子どもたちが帰ってくるのを待って、子どもたち自慢の農園をご案内しました。その後は、全員で昼食の時間です。久しぶりに会った里親様から「大きくなったなー」と声をかけて頂き、再会を喜びあう姿は親子そのものでした。成績や農作業のことを報告し、里親様ご自身の近況について教えてもらった子どもたちは、遙か遠い場所でのお父さん、お母さんの活躍を想像し、自分もそうなりたい！と決意を新たにしていました。

また、楽しいな出会いは里親様ばかりではありません。2年ぶりにお越しいただいた参加者様から、「2年前に来た時に話したのを覚えているよ」と言われた子どもは、久しぶりの再会にととても嬉しそうにしていました。また、初めて来てくださった参加者様にも、子どもたちが頑張って勉強した日本語を使い、



代表理事から叱咤激励を受けました

必死にコミュニケーションを取る場面を見ることが出来ました。日本で自分たちを応援してくれている方がいることを知ること、子どもたちにとってはさらに勉強を頑張る励みとなりました。

渡邊代表理事とのミーティングでは、夢について語り合います。ずっと変わらない夢を追いかけている子ども、新しい夢ができた子ども、全員、自分の夢を伝えます。代表理事は一人一人の夢を聞き、応援の言葉をかけます。しかし、夢を叶えるためには、勉強を頑張っているか、良い子にしているかも大切です。生活態度に問題のあった子どもは、良い子でいるように叱られ、成績の良くなかった子どもも、次は必ず良い成績をとるようにと、叱咤激励を受けました。

また、カンボジアの首都プノンペンの話もたくさんしていただきました。今、プノンペンの街は急速に発展しています。外国の企業も多く進出しており、代表理事や里親様、参加者様からは、そのような企業で働くことは、世界で働くことと同じことである、園の子どもたちには、将来世界で活躍できる人物になってもらいたいと激励を受けました。子どもたちは、未来の自分の姿を想像しながら、真剣な表情、ワクワクした表情で聞いていました。

皆さまとの交流の時間はあっという間に過ぎていきます。しかし、子どもたちは短い時間の中でも多くのことを感じ、また、皆さまとの絆を深めることができました。この思い出を胸に、自分たちの将来の姿をしっかりと思い描き、今後さらに勉強や日々の生活に励んでいってほしいと思います。

## 新職員紹介

12月24日、「夢追う子どもたちの家」に新たに職員が加わりました。名前は、デー・バックナーさん。事務員の退職のため新たに募集をしたところ、以前働いてくれていた事務員の紹介で来てくれました。バックナーさんは小学生のころにお寺に入り、その後ずっとお坊さんをしていましたが、園で働くためお坊さんをやめることに決めました。

事務員の仕事は、翻訳や通訳だけでなく、子どもの生活全般に対する指導、英語の補習授業などもあります。

バックナーさんは、事務はもちろん、お坊さん以外の仕事するのは初めてですが、自身も貧しい家庭を経験し、お寺で暮らした経緯があり、「お坊さんになったから満足に教育を受けることができた」「子どもたちには勉強の大切さを教え、将来のカンボジアを担う大人に育てたい」と教育に携わる仕事に、とても強い思いを持っています。

新しい職員、バックナーさんとともに、今後も全職員力を合わせ、より良い園をつくっていきます。



将来の可能性を信じて、頑張ることを約束



ボン・ナーと呼んでください。(ボン=お兄さん)



子どもたちに英語を教えてください